

平成30年9月9日実施 2級FP技能検定試験（学科、実技：資産設計提案業務）について

<学科試験>

■出題傾向

全般的に過去の類似問題を中心としたオーソドックスな問題が多く、目新しい切り口の問題などはあまり見受けられない。

■問題のレベル

科目によるバラつきは多少あるものの、スタンダードな問題が目立ち、従来のレベルと比べると、同じかやや易くなっているという印象を受ける。

■特記事項

問題8「住宅ローンの借換えをした場合の総返済額」は、一見すると取っつきにくい
が落ち着いて取り組めば比較的容易に解ける問題である。

一方、問題27「運用パフォーマンスの比較評価」は、正解を導くために計算式を含めた正確な理解が必須であり、問題40「決算書の分析」では、従前より詳細な決算書の知識が問われている。

<実技試験>

■出題傾向

『ライフプランニングと資金計画』からの出題数（15問）の次に、『金融資産運用』からの出題が7問と多かった。また、問11「法人契約の生命保険の支払保険料の経理処理」、問30「地震保険料の計算」のように、これまでの出題傾向とは異なる問題が散見された。

■問題のレベル

正解に辿り着くまでに時間のかかる問題や条件を読み飛ばすと計算結果が変わってしまう問題もあり、前回の5月試験と比べて難しいと感じた受検生が多かったのではない
か。

■特記事項

正解を求める過程で計算が必要となる問題が25問あり、事前に時間を計ったトレーニングをしていない受検生は時間切れになってしまったのではない
か。実技試験は丸暗記のみでは対応できないため、覚えた項目の周辺知識を整理する応用力が求められる。

<総括>

学科試験は、問題40など一部に難問もあるものの、全体に解答しやすい問題が多かった。また、難化傾向が続いていた『相続・事業承継』についても、これまでに比べて易しく感じたのではないだろうか。

実技試験については、問5「1株当たりの取得価額を求める問題」や、問37「国債の償還金に対する税額の計算」、問30「地震保険料の計算」など、見慣れない形式の出題が

あり、解答に時間がかかった受検生が多かったと思われる。

今回の試験は、学科試験については過去に頻繁に問われてきた事項をしっかり押さえたいれば6割以上の正解が見込めるが、実技試験については定番問題をしっかり得点できなければ合格点に届かないこともあるだろう。

※このシートは、平成30年9月9日に実施された試験を、山田コンサルティンググループが独自に分析し総括したものです。あらかじめご了承ください。